



Title	紀元二千六百年奉祝式の記
Author(s)	山本, 檣信
Citation	懷徳. 1941, p. 17-20
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89067
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

紀元二千
六百年 奉 祝 式 の 記

堂友會幹事 山 本 檜 信

むかし神武天皇、大和橿原の宮にて高御座に即かせ給ひしより悠久こゝに二千六百年、光輝ある國運隆昌の大御代に生を享けたるを欣び、一億の臣民舉りて奉祝申しあげし東京宮城外苑に於ける祝典の感激猶醒めやらぬ十一月十九日、友邦の人々も遠方より來り加はり、奉仕隊數百萬人の手によりて完成せる橿原神宮境域竝畝傍山東北陵參道擴張整備工事の竣工奉獻式を舉行される秋晴れの今日の佳辰を卜し、我が懷德堂に於て紀元二千六百年奉祝式を舉行されることになつた。參集者は、

顧問狩野直喜、理事長小倉正恆、理事木間瀨策三、評議員佐多愛彦、同林市藏、同森平兵衛、同高原操、幹事成田軍平、同岡野廉平、講師秋月胤繼、同大江文城

の諸先生を初め聽講生、堂友會員凡そ六十名。大講堂壇上に金屏風を周らし、正面に大國旗を掲げ、中央に卓子を置く。來賓の爲めにも別段の席を設けざるは齊しく一臣民として奉祝申しあげるに相應しき光景である。午後四時四十分一同着席し、先づ國旗に對し起立敬禮したる後、宮城に對し奉りて最敬禮し、次に橿原神宮を遙拜し奉る。終つて理事長小倉正恆先生が登壇されて、音吐朗々と左記の

式辭を讀まれた。

式辭

瑞光燦トシテ輝ク 皇紀二千六百年ヲ迎ヘ建國勦業ノ丕績ヲ景仰シ天壤無窮ノ皇運ヲ祝福スルノ記念典禮ハ國ヲ舉ケテ行ハレ一億同胞歡天喜地廣大無邊ノ聖德ニ感泣セサルナシ曩ニ紀元ノ佳節ニ當リ畏クモ 大詔ヲ渙發アラセラレ

爾臣民宜シク思ヲ神武天皇ノ創業ニ馳セ皇圖ノ宏遠ニシテ皇謨ノ雄深ナルヲ念ヒ和衷戮力益々國體ノ精華ヲ發揮シ以テ時艱克服ヲ致シ以テ國威ノ昂揚ニ勗メ祖宗ノ神靈ニ對ヘンコトヲ期スヘシ

ト仰セラレ更ニ本月十日宮城外苑ニ於ケル奉祝式典ニ際シ 兩陛下親シク臨御アラセラレ重ネテ

優詔ヲ賜ハリ

今ヤ世局ノ激變ハ實ニ國運隆替ノ由リテ以テ判カルル所ナリ爾臣民其レ克ク嚮ニ降シタル宜諭ノ趣旨ヲ體シ我カ惟神ノ大道ヲ中外ニ顯揚シ以テ人類ノ福祉ト萬邦ノ協和トニ寄與スルアラシコトヲ期セヨ

ト宣ハセラル洵ニ恐懼ニ堪ヘス是レ實ニ宏遠ノ宸旨ニシテ君民一體ノ洪範ヲ訓ヘタマヘルナリ普天率土盡ク慶祝ノ意ヲ表シ感激ノ聲乾坤ニ溢レ正ニ肇國以來ノ盛事ト稱セラル惟フニ世界ニ國多シト雖モ我カ帝國ノ如ク國礎悠久ニシテ光輝アル歴史ヲ有シ然カモ將來ニ向ツテ發展ノ大道ヲ邁進シツ

ツアルモノナシ是レ全ク 皇祖天業ヲ恢弘シテ德化ヲ六合ニ敷キ歷世丕績ヲ紹キタマヒ恩威ノ光被
スルニ由ル今ヤ千古未曾有ノ一大轉換期ニ際會シテ國運ノ發展飛躍ヲ期シ東亞ノ安定ヲ確立シ世界
平和ヲ促進スル等前途非常ノ難局ヲ打開セサルヘカラス我等幸ニ生ヲ此ノ昭代ニ享ケ此ノ隆運ヲ仰
キ茲ニ 聖紀ヲ壽ク千載一遇ノ機會ニ遭遇シテ感激扞躍ノ至リニ堪ヘス和衷戮力以テ時艱ヲ克服シ
肅ミテ 聖恩ニ奉答センコトヲ誓フ我カ懷德堂ノ主旨トスル所ハ先儒ノ遺業ヲ繼ギ聖賢ノ教ヲ奉シ
專ラ德性ヲ涵養シ學術ヲ進展シ以テ國民文化ニ資スルニ在リ堂友タルモノ各其ノ職ヲ守リ滅私奉公
ノ誠ヲ捧ケ臣道實踐ノ義ヲ全クスルト共ニ協力一致以テ八紘一字ノ皇謨ヲ翼賛シ深厚無比ノ 聖恩
ニ奉對センコトヲ期スヘキナリ仍テ本日茲ニ奉祝式ヲ開催シ諸君ト共ニ恭シク 聖壽ノ萬歲ヲ祝シ
寶祚ノ無窮ヲ頌シ奉ル

昭和十五年十一月十九日

財團法人懷德堂記念會理事長 小 倉 正 恆

右朗讀了つて一旦降壇、再び登壇されて別項の如き一場の挨拶を述べられる。式典參列の榮譽に浴
された感激に語を起されて德性の涵養、智能の練磨に勉め、正を踐み義を貫きて聖德を八紘に光被す
べき我等の使命を力説された。次で理事長の發聲にて、一同聲高らかに 聖壽の萬歲を三唱して一旦
式を閉ぢ、更に演壇を設けて狩野直喜先生の御講話を拜聽する。別項の如く我が國體の萬國に冠絶す

る所以を闡明せられ、皇國無窮の彌榮を祝福せらる。右終つて一同導かれて小講堂に設けられたる賀筵の席に入る。清潔な白布に覆はれた机上に、代用食とはいひながら御心盡しの折詰が所挾きまでならべられてある。和氣藹々の裡に互に清酒を酌みかはして乾杯し、千代萬代に榮えゆく皇國の萬々歳を祝福すると、もに臥薪嘗膽盡忠の大義に徹し、皇國の威風を世界に宣揚し、萬邦平和恢復の　聖慮に應へ奉らんことを誓つた。

今茲に理事長小倉先生の御挨拶、及び狩野先生の御講話を本堂書記藤塚誠二君が速記せるを、特に御許可を獲て編纂し、紀元二千六百年の佳歳を奉祝せる好記念として、後世子孫に遺す爲め延引ながら「懷德」臨時號を印行することゝした、讀者請ふこれを諒せよ。